

## 問題 E

問 1. 嚥下障害患者に適さない食事形態はどれか選びなさい。

1. ゼリー
2. 玉子豆腐
3. 高野豆腐の煮物
4. マッシュポテト
5. ヨーグルト

問 2 間違っているものを選びなさい。

1. 嚥下時に右側の梨状窩に食塊の残留がある場合、代償法として右向き嚥下をおこない、嚥下後の咽頭残留に対しては左向き嚥下をおこなう。
2. 食事中に食塊が舌下部に残留する場合は舌尖を挙上する機能の低下が考えられ、口腔に水分を含んだ直後にむせがある場合は、奥舌を挙上する機能の低下が考えられる。
3. 麻痺側の舌背や口腔前庭部に食塊の残留がある場合には健側に食事を入れる。
4. 舌の運動機能低下や感覚低下などにより口腔期が延長する場合には、一口量を多くする。
5. 口唇閉鎖不全や舌の運動機能障害がある場合に適している食形態はミキサー食である。

問 3 間違っているものを選びなさい。

1. 最も新しいタイプのトロミ剤の材料はキサントガムである。
2. 口腔から咽頭への送り込みが困難な場合の代償法として、体幹を後方へ倒す方法がある。
3. パーキンソン病患者においては、食前に坑パーキンソン薬の服薬をおこなうと良い。
4. パーキンソン病患者の食事時間にBGMとして120拍のマーチを流した。
5. 食塊は舌により咽頭へ送られ、梨状窩を経て喉頭蓋谷を通り食道へ入っていく。

問 4 間違っているものを選びなさい。

1. 食事中に声の変化がある場合には、食塊の喉頭侵入や誤嚥が考えられる。
2. カプサイシンは嚥下反射・咳反射の誘発に有効である。
3. 食材を固める為の材料はゼラチンのみである。
4. トロミ剤は、食材や調味料の違いによりトロミの付き方が変化する。
5. 片栗粉は唾液の影響を受け粘性が変化するが、トロミ剤は唾液の影響を受けにくい。

## 問題 E

- 問 5 認知症患者への食事介助として適切でないものを1つ選びなさい。
1. 食べなれた味や形の物を提供する。
  2. 1つのものだけにしか手を出さない場合、食器の位置を時々移動する、1つの皿に盛り付けるなどの方法をとる。
  3. テレビの音、席順などはあまり影響を与えない。
  4. 口腔に溜めこんで動きが止まる場合、はっきりした味や香りにすると良い。
  5. 食器は食材とのコントラストがはっきりした色のものを選択する。
- 問 6 厚労省の定める「嚥下困難者用食品」に記載された食品の物性では口腔・咽頭で( )しにくく、温度による物性変化が少ないものがよいとされる。
1. 食塊形成
  2. 嚥下
  3. 液化
  4. 誤嚥
  5. 固形化
- 問 7 高齢者の肺炎の主な原因である誤嚥は窒息の原因にもなります。では、家庭内での不慮の事故の原因で、窒息は何番目に多いでしょうか。
1. 1位
  2. 2位
  3. 3位
  4. 4位
  5. 5位
- 問 8 口腔ケアに関する記載で誤っているものを1つ選びなさい。
1. 口腔乾燥がある場合には、保湿剤を積極的に使用する。
  2. 口腔乾燥がある場合には、口腔内を十分潤してから口腔ケアを実施する。
  3. 口腔過敏がある場合には、まず脱感作をおこなう。
  4. 口腔ケアを積極的に行うことで、口腔機能、嚥下機能の改善が期待できる。
  5. 経口摂取をしていなくても口腔ケアは必ず実施しなければならない。

## 問題 E

問 9 口腔ケアで期待できる効果として間違っているものを1つ選びなさい。

1. 味覚の向上
2. 肺炎予防
3. 唾液分泌の抑制
4. 意識の覚醒
5. 口臭予防

問 10 口腔ケアに関する記載で間違っているものを選びなさい。

1. 器質的口腔ケアとは、歯みがきや口腔粘膜の清掃、保湿など、口腔を清潔にし、良い環境に保つことを中心としたケアである。
2. 機能的口腔ケアとは、粘膜ケアや口腔周囲のマッサージ効果などで口腔機能の維持や改善を目的とし、摂食・嚥下訓練としての意味を持つ。
3. 開口状態で口腔乾燥が進行する症例では、首や肩、舌下部の筋群をマッサージし自己閉口を促すことが必要である。
4. 唾液の分泌量は、耳下腺が最も多い。
5. 唾液の分泌量は、およそ1日1.0～1.5リットルである。